



- 8:14 弟子たちは、パンを持って来るのを忘れ、一つのパンのほかは、舟の中に持ち合わせがなかった。
- 8:15 そのとき、イエスは彼らに命じられた。「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種には、くれぐれも気をつけなさい。」
- 8:16 すると弟子たちは、自分たちがパンを持っていないことについて、互いに議論し始めた。
- 8:17 イエスはそれに関がいつて言われた。「なぜ、パンを持っていないことについて議論しているのですか。まだ分らないのですか、悟らないのですか。心を頑なにしているのですか。」
- 8:18 目があっても見ないのですか。耳があっても聞かないのですか。あなたがたは、覚えていないのですか。」
- 8:19 わたしが五千人のために五つのパンを裂いたとき、パン切れを集めて、いくつのかごがいっぱいになりましたか。」彼らは答えた。「十二です。」
- 8:20 「四千人のために七つのパンを裂いたときは、パン切れを集めて、いくつのかごがいっぱいになりましたか。」彼らは答えた。「七つです。」
- 8:21 イエスは言われた。「まだ悟らないのですか。」
- 8:22 彼らはベツサイダに着いた。すると人々が目の見えない人を連れて来て、彼にさわってくださったとイエスに懇願した。
- 8:23 イエスは、その人の手を取って村の外に連れて行かれた。そして彼の両目に唾をつけ、その上に両手を当てて、「何か見えませんか」

- と聞かれた。
- 8:24 すると、彼は見えるようになって、「人が見えます。木のようですが、歩いているのが見えます」と言った。
- 8:25 それから、イエスは再び両手を彼の両目に当てられた。彼がじっと見ていると、目がすっきり治り、すべてのものがはっきりと見えるようになった。
- 8:26 そこでイエスは、彼を家に帰らせ、「村には入って行かないように」と言われた。

パリサイ人は信仰的であることを誇っている人々で、自分の信仰的ないを知らしめて、自分には特別だと思わせたい人の象徴です。またヘロデはその逆で、信仰的な生き方には興味がなく、ただこの世の権威や慣わしを重視して生きる人の象徴です。

イエス様がパン種と言われたのは、そのような価値観と生き方が教会では全体に影響を及ぼし、広がってゆくからです。信仰の自己宣伝も世的妥協主義も、クリスチャンはそれを見抜き、影響されないようにする必要があります。

イエス様の奇跡などのみわざにはメッセージが込められています。弟子たちはそれを悟りませんでした。パンが十分かどうかは彼らの関心事ではありません。私たちが主の御手の中にある出来事を見るとき、パンなど見えない物質的なことに気を取られて、霊的・信仰的なメッセージであるのみどころを悟らないでいるかも知れません。みどころを悟って、物事の本质を捉極めるには、この盲人のように、私たちは自分の力では無理です。主に頼んで、見えるようにしてもらふ必要があるのです。またそれは段階的なもので、始めから完全な視点を持った人はいません。主イエスとの交わりの中で、現実の中で見えるようにさせていだけまししょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたなどの部分を主は赦おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

